ＮＯ！リニア

No.１５５
2022年10月27日
ＪＲ東海労働組合

ＪＲ東海労ＨＰにアクセス

大井川水問題パンフは問題だ！⑦

「地下水量は減らない」と言いきれず！中下流域は良くても上流域はどうなのか？

リニアパンフの質問３は、「工事により、地下水の量は減りませんか？」で、回答は「科学的な成分分析および水収支解析の結果と、導水路トンネル等により中下流域を流れる水の量が減らないようにすることから、トンネル掘削による大井川中下流域の地下水量への影響は、河川流量の季節変動や毎年の変動による影響に比べて極めて小さいと考えられます」となっています。

まず、「減りませんか？」の質問に対し、「考えられます」と回答していますので、曖昧で確実性はありません。ズバリ「減りません」と回答できないということは、「減る」ことが充分あり得るということです。また、中下流域の影響のことを回答してますので、焦点をずらしているのです。

その一方で、会社は上流域（南アルプストンネルの周辺）では、地下水位が３００ｍ以上低下すると予測しています。すでに、この時点で「地下水量は減る」と答えているようなものです。低下する範囲は何㎞にも及びます。低下した分の水はどこかに流失します。３００ｍ以上ということは、相当な量の水であることが分かります。上流域の地下水が低下するということは、上流域の川の水が流れなくなるということではないでしょうか。単に、導水路で戻せば良いというものではありません。

上流域に生息する動植物の生態系を破壊するばかりではなく、地下水がなくなったことにより、ただでさえ軟弱な地盤が崩れる危険性を秘めています。南アルプスは、年間平均４㎜隆起し続けています。隆起により、山頂が定期的に崩れています。それだけ危険な山脈なのです。低下した地下水量を回復するのには、数百年要すると言われています。会社は、失った水は取り戻せないことを自覚すべきです。